

平成22年度10月にあいち発達障害者支援センター主催のベーシック研修が行われ、愛知県に18名のペアレントメンターが新たに加わりました。今後は18名のペアレントメンターを含め活動・報告の予定です。
また、既ペアレントメンターは初めて事例検討会を行いました。来年度に向けて事例検討会の進め方について検討していきます。



①メンター活動報告(7～9月)

7月2日	サポートブック研修	2名
7月5日	サポートブック研修	1名
7月7日、8日	家族支援プログラムサテライト(豊橋会場) サポートブック研修 障害特性講義・疑似体験 ピアカウンセリング	1名 1名 13名
7月10日、11日	ペアレントメンター、ベーシック研修(鳥取に派遣) 愛知の活動紹介 グループワークファシリテータ	1名
7月13日	大学講義(福祉学部)	4名
7月21日	大学講義(教育学部)	1名
7月27日	現任研修(県主催:支援事業所対象)	2名
9月5日	支援者養成研修 グループファシリテータ	3名
9月7日	サポートブック研修	1名

②メンター活動報告書の集計(7～9月)

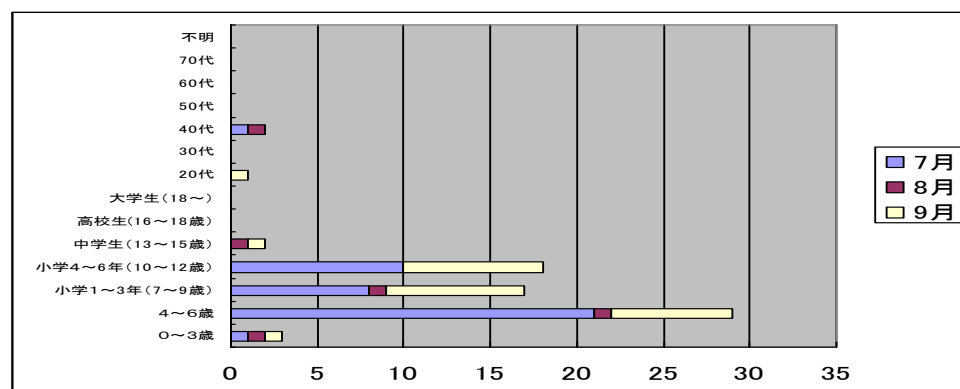
9名の方から合計19件の報告をいただきました。つぼみの会で受けた電話相談、つぼみ主催の茶話会などのほかに、メンターが個々に受けた相談も該当します。以下に結果をご報告します。

報告数は一つの行事に複数のメンターからのものもあります。相談件数が詳細数と必ずしも一致しません。

(1)相談件数と性別・知的・手帳の推移

	相談件数	相談対象者		知的障害		療育手帳	
		男	女	あり	なし	あり	なし
7月	8	21	18	3	15	3	12
8月	5	4	1	2	2	1	2
9月	6	13	1	1	13		14

(2)相談対象者年齢

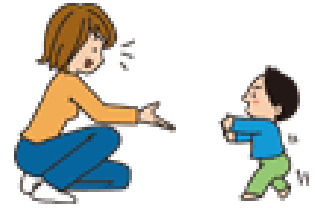


⑤家族支援プログラムサテライト(北名古屋会場)報告

平成 22 年 10 月 5 日～6 日の二日間で北名古屋健康ドームにおいて、今年度 2 回目の発達障害児親子支援プログラム・サテライト事業が開催されました。報告を下記にまとめます。

(1)参加者数

対象児は 2 歳 6 ヶ月から 6 歳 1 ヶ月の 14 組 15 名。
ペアレントメンターは 12 名で担当しました。



(2)各担当者からのコメント

サポートブック研修を担当させていただきました。研修を行う前に、参加していただく方がどれだけサポートブックについて知っているかの把握をするためにいつも尋ねています。以前から比べると、「すでに作成している」方や「作成はこれからだけどサポートブックのことは知っている」という方が本当に増えたと思っています。

説明の後に実際サポートブック作成をしていただくときも、熱心に取り組んで書き上げたり、わからないときには質問をされたり、書き方のコツなども聞かれます。私もわが子の事例を挙げながら、書き方のアドバイスをしたり、実際に使用した話などをしていきます。書き終えたものを隣の人と交換していただいて話をするときも、初めて会った方同士でも話に花がさいて時間が足りないこともあります。短い時間の中で、サポートブックの事を知っていただき、作成をして活用に繋げていく……私も話をするときには、いつ・どこで・誰に・といった具体的なことをわかりやすく伝えていけるように今後も活動していきたいと思っています。

【サポートブック研修担当 三井 春枝】

アンケートには「作ろうと思った」とお答えになる方が多かったです。「入園・入学に向けて作成しようと思う」という方がいっしょに、新年度に向けて前向きに考えて下さる方が多く、うれしく思いました。

昨年度に続き2回目の担当をさせていただきました。今回参加のみなさまは「勉強していしゃる方が多い」と聞き、前回の内容を見直し、少々応用的な内容を加えました。

「今日は何かを得てお帰りいただけるように」と心して進めさせていただきました。また、子育てに役立つコツなどをお伝えし、時折ワークの時間を交えながらの話でしたが、みなさんサクサク記入されていてとても驚きました。この頃の私だったらきっとペンを持ったまま止まってしまうな……と。

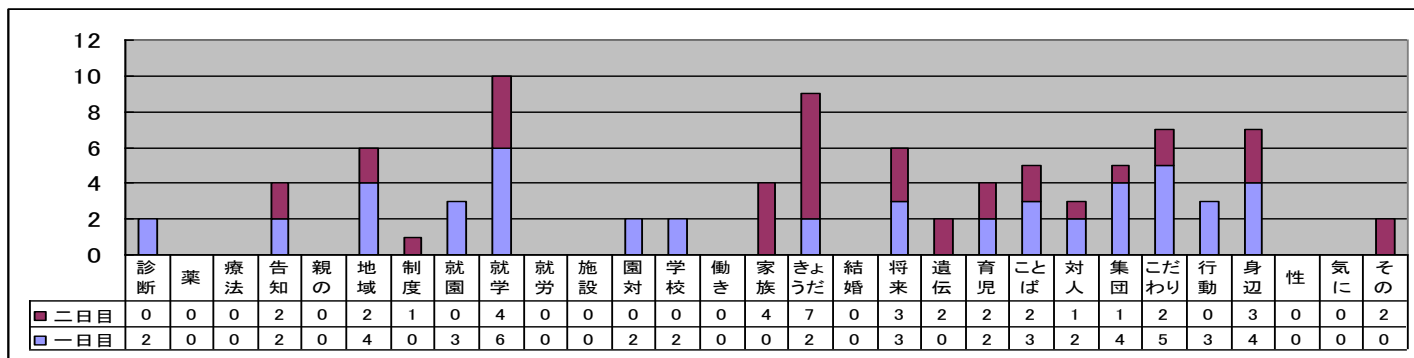
「障害特性」の講義の中で、参加者のみなさまには疑似体験をしていただいています。その後感じたことを聞いてみると「こんな感じ方しているんだ……」「怖い……」とおっしゃる方もいらっしゃいました。子ども達の世界を体験してみると今後の子育てに何らかのプラスになることを祈っています。身近に理解する人がひとりでも増えると誤解も少なく、お互い歩み寄ることができるのではないかなと思っています。

【講義、疑似体験担当 加藤 香】

参加者アンケートでは「目からうろこだった」「親としてどう対応していけばいいのか分った」「教科書ベースでなく体感ベースだから理解できた」など、実感できた方が多くみられました。

(3)ピア・カウンセリング報告

【相談内容の推移】……メンター報告書より、今回はグラフにしてみました。



同じ立場(参加者もペアレントメンターも)の話が聞けたのでよかった。悩みを共有できたこともよかったし、先輩の笑顔も、生の声が聞けた事もよかった。など、いろいろな意見をたくさんいただきました。

(4) 全体からの感想として

参加者のみなさまが「とても勉強になったので次回も参加したい」「参考になるところがたくさんあった」「託児があったので子どもにもいい経験になった」といい感想をいただきました。

*** 次回サテライト事業は平成 22 年 11 月 15 日(月)16 日(火)に瀬戸市で開催されます**

⑥ペアレントメンター活動報告

こんにちは。メンターの宇佐美晴美です。

子供がつぼみの会の高機能部でお世話になっており、高機能部の茶話会のお手伝いをさせていただいているのですが、「茶話会の担当をするなら、メンター研修を受けたほうがいいよ。」とお誘いを受け、メンターが何かよくわからないまま、2008 年にベーシック研修を受講し、その後フォローアップ研修・応用研修を受けました。研修後は、愛知県の各地で行われている家族支援プログラムのピアカウンセリングや、愛知県下の行政窓口職員研修のファシリテーターとして参加しています。また、つぼみの会 高機能部の活動として、成人向けや女子向けなどの茶話会や、昨年より行っている高機能部 SST 事業のメンターとして、SST についてはつぼみの会 副会長の佐藤さんと共に参加しています。今回は SST での活動についてお話させていただきます。

SST は小学生、中学生、高校生以上それぞれのグループで子供達がセッションに参加している間、親が集まり、最近の子供の様子、問題となっていることなどを話します。学校での友達とのトラブル、先生との関わり、進路の問題などいろいろな悩みがありますが、どれも自分達が同じ様に悩んできたことなので、自分達の経験を話したり、進路についてなどは分かる範囲内で具体的に答えたりします。活動での良い点は、同じような年齢の子供なので悩みが共有できること、定期的な集まりなので今回問題になったことが次回にどのようなようになったかを聞くことができること、またセッションに参加している子供の様子がわかっているの具体的な問題点が想像できることなどが挙げられると思います。また、セッションの中でいつもは発言しないような子が積極的に発言した時、「学校の行事で活躍した。」と親から聞いたり、逆に何か落ち着かない時は友達とトラブルがあったりなどの情報をスタッフに報告します。限られた時間の中でメンターが参加することによって、セッションの様子を親に伝えたり、親から聞いた情報をセッションに活かしたりするなど双方向に情報を共有することが出来るのもメリットだと思います。

この活動は 2 年目ですが、参加している親の方々から得る情報も多く、自分の子供は過ぎてしまった学校の様子や県下それぞれの地区の情報などはメンターとしての活動に役立っています。

10 月に行われた、ベーシック研修にスタッフとして参加させていただきました。初めてで緊張してみえる方や私より先輩で自信を持って対応してみえる方などさまざまでしたが、多くの方が研修を受けることでメンターの仲間が増えるのは心強いことです。

メンターというのは特に新しいことではなく、先輩のお母さん方が今まで活動してみえたことだと思います。メンター研修などに参加するたびに、相談を受けることの難しさや自分自身の勉強不足を感じますが、先輩のお母さん方からもらったエネルギーを次の世代のお母さん達に譲り渡せるよう、研修や活動に参加させてくれる家族に感謝しつつ、これからも頑張っていきたいと思います。

愛知県自閉症協会 宇佐美晴美

「今回のゲストコメンテーター」

ペアレントメンターのみなさま、こんにちは。鳴門教育大学の小倉です。

数年前から、愛知県自閉症協会の高機能部の SST に関わっています。そこでは、宇佐美さんも書かれているように、子どもたちが SST のセッションを行っている間に、保護者の方はいろんなことを話されています。私は、基本的には SST のグループを担当しているのですが、時々保護者の方の話し合いに参加しています。また、つい先日（10 月 10 日・11 日）は徳島県発達障害者支援センター主催のメンター研修（ベーシック研修）に参加させていただきました。

このような活動に参加させていただいた経験と、何人かのメンターさんのお話をうかがっている中で感じていることを少しコメントさせていただきます。

人は誰かに援助を求めようとするときに、「周囲の人は自分のことをどう思うだろう」「(援助を求める)相手は自分のことをわかってくれるだろうか」「本当に問題を解決してくれるだろうか」「自分を責められたりするんじゃないだろうか」というような、いろんな不安を感じると言われています。もちろん、不安を感じるかどうかはその人によって、また援助を求める先によって変わってきます。そして、このような不安が高すぎると、なかなか援助を求めることはできません。でも、不安があっても何かのきっかけで援助を求めることができたり、一度援助を求めるとちょっと不安が少なくなったりもします。

私は、ペアレントメンターの存在はそのきっかけの 1 つになるのではないかと思います。専門家にはちょっと相談できないけど、メンターさんに少し相談してみよう、そう思う保護者の方も多いはず。専門家に相談するのはちょっと違う、でも周りの友達に相談するのともちょっと違う、そんな援助を求める先として、とても大切な場所だなと感じています。

もう一つ、私が感じているこのペアレントメンター事業の意味を記しておきます。それは、研修を含めたメンターさんたちの活動の場が、本当にいろんな人たちのつながりを創る場になっているということです。もちろん、ペアレントメンター事業だけがつながりを創るきっかけになっているわけではありません。ただ今回の徳島県での研修でも、親の会の団体の方々と間のつながり、親の会の方々と専門家のつながり、専門家と専門家のつながり…。いろんな縦の糸、横の糸が繋がっていく姿を間近にした感じがしました。

なんだかまとまりない感じになってしまいましたが、徒然なるままに書かせていただきました。ペアレントメンターの活動に少し関わらせてもらうことで、自分が専門家として何をすべきかを日々考えさせられます。これからも、専門家の 1 人として、メンターさんたちとつながっていくことができればと思っています。2 月の応用研修では私も参加させていただきます。愛知のメンターさんに会える日を楽しみにしています。これからもよろしく御願い致します。

鳴門教育大学大学院学校教育研究科 人間教育専攻 臨床心理士コース 小倉 正義

⑦今後のお知らせ

1. 平成 23 年 2 月 26 日～27 日に開催される「応用研修Ⅱ」にお申し込みいただきましたみなさま、ありがとうございます。詳細については登録していただいた通信方法で 1 月中旬ごろにお知らせいたします。今しばらくお待ちください。なお、一日目(26 日)終了後、懇親会を予定しておりますのでご予約いただきますようご連絡致します。

2. 10～12 月の活動報告書提出締切については 1 月 12 日です。期日までにご連絡(ない場合も)をお願い致します。

中日新聞に掲載されました



前回(5号)での吉川先生の紹介に続き、今回は10月2～3日に開催されたベーシック研修を取材していただき、10月14日に新聞で紹介されました。中には「うれしい!」「すごい!」と喜ぶペアレントメンターもあり、ちょっとした騒動になりました・・・ 記事にいただいた中日新聞 野村さまには感謝いたします。今回もここに掲載したいと思います。

*範囲が広すぎるため、WEBページを掲載しました。

【暮らし】

ペアレントメンター 発達障害ある子を育てる 経験した先輩が手助け

発達障害の子を育てた親たちが、同じ障害のある子を持つ若い親たちを支える「ペアレントメンター」養成の取り組みが広がっている。メンターとは「信頼できる相談相手」の意。大変な子育てを経験した先輩だからこそ、安心して相談できることも多い。厚生労働省も、本年度からメンター養成に乗り出した。(野村由美子)

2010年10月14日



グループに分かれ、ロールプレーで相談に乗る練習をする参加者ら

名古屋市内で十月初めに開かれた「ペアレントメンター養成講座」。あいち発達障害者支援センターが主催し、自閉症や学習障害(LD)の子どもを育ててきた三十～六十代の親たち十八人が参加した。

講座の中で、参加者同士のロールプレーがあった。「子どもが病院で自閉症と言われました。学校生活がどうなるか不安です」と、悩みを打ち明ける親役。メンター役の受講生の女性は「幼稚園から小学校に入るときは、私も悩みました」と体験を語る。

終了後、講師は「もう少し幅広く話を聞いてあげると、別の悩みが出てくることもありますよ」とアドバイスした。質問に答えるだけでなく、言葉にならない気持ちを受け止めて共感したり、療育機関などの情報を提供したりするのも、メンターの大事な役割だ。

講座では、自閉症や注意欠陥多動性障害(ADHD)、LDなど発達障害の知識、相談技術などを二日間かけて学んだ。

こうした養成講座は、厚労省の予算で、今年から愛知、福井、埼玉、栃木など二十カ所で行われている。

同省の日詰正文・発達障害対策専門官は「発達障害を診る医療機関が少なく、診断を受けるのにも長期間待たされることも少なくない。それだけに、不安を抱える親たちを支える相談相手が必要。同じ立場の親だからこそできる役割もある」と話す。

今後、各都道府県でメンターの養成を進め、来年度以降は、メンターの活動を支えるコーディネーター役を発達障害者支援センターに配置するなど、体制整備を目指すという。



ペアレントメンターの養成は二〇〇五年ごろから、日本自閉症協会などが各地で行ってきた。今回の愛知県の養成講座も、同県自閉症協会のセミナーを修了したメンターが指導役を務めた。

発達障害がある子を持つ親たちは、「本人が苦手なことを園側にどう分かってもらったらいいか」「問題児扱いされてしまった」など、医療機関や療育施設とのかかわり方、就園、就学について悩みや不安を抱え、行き違いが起きることもある。

加藤香同協会理事によると、先輩の親たちは以前から相談に乗ってきたが、つい説教調になってしまったり、必要以上に相手に踏み込み過ぎてしまったりするケースがあるという。「ニーズが増えているからこそ、適切な知識と第三者的な目線も持てる人材の養成が必要」と指摘する。

十五歳の自閉症の息子がいる浅野雪香さんもメンターとして活動する一人。「養成講座を受ける前は、自分の意見を押し付けてしまっていたかも。受講後は、アドバイスすることより、相手の気持ちを引き出すことを大切にするようになりました」

同協会のメンターは、親の相談に乗るほか、療育施設での講座の講師を務めたりしている。

講師として参加した名古屋大病院親と子どもの心療科の吉川徹医師は「医者や専門家がどれだけ配慮しても、障害を受け止める際に衝撃や戸惑い、怒りなどが出てくる。話を聞くのに加え、適切なタイミングで医療機関を紹介したり、専門機関と上手につながり続ける手助けをすることで、親も子も楽になれば、子の発達にもいい効果があると思う」とその意義を強調する。

ペアレントメンター養成研修は日本自閉症協会が作成した【ベーシック研修】【フォローアップ研修】【サポートブック作成リーダー養成研修】の3つで構成されておりました。今回はこのパッケージを発達障害Ver1にアレンジして行っております。それぞれの研修内容は下記の通りです。

【ベーシック研修】

ペアレントメンターとは・・・というガイドライン、発達障害の基礎知識を再認し、相談を受けるためのノウハウを2日間で学びます。個別面談を中心に講義・ロールプレイを行います。

【フォローアップ研修】

ベーシックを修了したペアレントメンターを対象に、電話相談の講義・実技、グループ相談などに使用できるインシデントプロセスについて1日かけて学びます。

【サポートブック作成リーダー養成研修】

地域活動の一環としてサポートブック研修を開催していくためのノウハウ半日かけて学びます。

* 愛知県自閉症協会では養成研修後の研鑽のため応用研修を昨年度からオリジナルで開催しております。今年度は2月26日、27日の2日間で開催。27日は一般公開「身体医療について」もいたします。

平成22年10月2日、3日のベーシック研修で新たに18名のペアレントメンターが誕生し、愛知県下のベーシック修了者は48名になりました（内訳：愛知県自閉症協会37名、LD親の会かたつむり7名、アスペ・エルデの会1名、えじそんくらぶ1名）

現在、サポートブック研修メインスタッフ6名、障害特性・疑似体験担当7名をはじめ、ピアカウンセリング、茶話会、研修のファシリテータ、各種講演などに派遣されております。

第 6 回集計をふまえて(吉川 徹先生より)

メンターの皆様、日々の活動本当にお疲れ様です。また愛知県内で初めて実施された「発達障害」のペアレントメンター養成研修へのご参加、研修へのご協力、誠にありがとうございました。「自閉症」のメンターから「発達障害」のメンターへの流れ、また親の会主催の研修から行政主催の研修への流れは、今後の発達障害への支援を考える上で大きな一歩であったと思います。

もちろんメンターの活動が「発達障害」を対象とするようになったからと言って、一人のメンターが全ての相談を受けないというわけではもちろんありません。メンターはそれぞれ得意な分野があることが当然です。愛知県のようにメンターの数が多く、地域全体の人口も多い地域では、こどもの年齢や障がいのタイプ、それぞれのメンターの個性に応じて、それぞれに得意な分野で活動していけるのが望ましい姿だと思います。

一方で、併せて起こってくることも少なくない、種々の発達障害について基本的な知識を持つておくことは、メンターとしての活動にも、ひょっとするとそれぞれの家庭での子育てにも役立つことがあるのだろうと思います。今後ますます幅広い層の方々にメンターの活動に参加していただければと思います。

今回、自分は群馬県前橋市で開催された日本児童青年精神医学会（日本で一番大きな児童精神科の学会です）の第 51 回総会で、愛知県自閉症協会の加藤香さん、コロニー発達障害研究所の竹澤大史先生、厚生労働省の日詰正文先生にご協力をいただいて、「愛知県における自閉症スペクトラム障害ペアレントメンター活動の実態」と題して、愛知県での実践についてご報告をさせていただきました。一般演題の口演だったのですが、意外に多くの方にご参加をいただき、また終了後には今後ペアレントメンター養成を検討しているというあちこちの地域の方からご質問もいただきました。愛知での先進的な活動とサポートシステムの整備に向けた運動に興味を持ってくださっている方々もたくさんいるようです。

今後、発達障害の当事者やその家族をとりまく環境は大きく変わっていくかも知れません。しかし親から親への、親にしかできないサポートの必要が薄れることはないだろうと思います。ペアレントメンターの活動を息の長いもの、時代の変化に負けないものにしていくために、よい意味での行政との連携、分担ができ、メンターの方々が無理することなく続けていける要請とサポートの仕組みができあがっていくとよいですね。そのためにもぜひ、メンター活動報告へのご協力もよろしくお願いいたします。

名古屋大学医学部附属病院 親と子どもの心療科 吉川 徹

<編集後記>

ベーシック研修で新たな仲間が加わりました。研修では第 2 期生のみなさんがロールプレイのスタッフで参加していただき、それぞれのグループで活躍していただきました。心強いです(^^)新メンバーのみなさま、これからよろしくお願いします。

通信を作成しているこの時期は、一年の間で最もサポートブック研修への派遣が多い時期でもあります。毎日誰かがどこかで研修に出向いたり(中には一日に別々の場所で 2 人が研修をしている状況もあり)誰も体調を崩せない(子どもも..)代打が出せないという時期でもあります。サポートブックを担当しているスタッフもそろそろ限界(と言い始めて 2 年ぐらい経ちますが..)です。それだけニーズがあるということを喜ぶべきでしょうが、最近はやっと複雑...

年末に近づくにつれ「2 月の準備をしなきゃ..」とあせってきました。今回も充実した研修になるようこれから頑張っていなくては..と思っています。年賀状を作成するのは今年もギリギリかな...。その前に冬休み対策の準備にはいなくては...

みなさま良いお年を(少し早いですが..)来年もどうぞよろしくお願い致します。

発行者：愛知県自閉症協会（つぼみの会）

〒460-0013 名古屋市中区上前津 2-14-25 上前津中央マンション 202 号

TEL/FAX 052-323-0298 E-Mail: tubomi-aa@nifty.com

編集担当者：支援部 加藤 香